

八冊奇

[光悦謡本] 3冊 WA7-232 02-001

国立国会図書館







南<sup>ミナミ</sup>女<sup>メ</sup>や<sup>ヤ</sup>又<sup>マタ</sup>大<sup>オホ</sup>止<sup>ト</sup>乃<sup>ノ</sup>觀<sup>ミ</sup>世<sup>ヨ</sup>る<sup>ル</sup>  
 も<sup>モ</sup>為<sup>ナ</sup>さ<sup>ス</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>ヤ</sup>一<sup>ヒト</sup>絲<sup>イト</sup>一<sup>ヒト</sup>志<sup>シ</sup>猶<sup>ナ</sup>形<sup>カ</sup>三<sup>ミ</sup>ある<sup>ル</sup>一<sup>ヒト</sup>さ<sup>ス</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>ヤ</sup>  
 一<sup>ヒト</sup>絲<sup>イト</sup>一<sup>ヒト</sup>志<sup>シ</sup>猶<sup>ナ</sup>形<sup>カ</sup>三<sup>ミ</sup>ある<sup>ル</sup>一<sup>ヒト</sup>さ<sup>ス</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>ヤ</sup>  
 氏<sup>ウヂ</sup>程<sup>チヨウ</sup>日<sup>ニチ</sup>を<sup>ヲ</sup>始<sup>ハジ</sup>り<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>城<sup>シロ</sup>を<sup>ヲ</sup>築<sup>ツク</sup>り<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>是<sup>レ</sup>を<sup>ヲ</sup>大<sup>オホ</sup>たる<sup>ル</sup>  
 之<sup>レ</sup>の<sup>ノ</sup>み<sup>ミ</sup>み<sup>ミ</sup>す<sup>ス</sup>所<sup>ト</sup>が<sup>カ</sup>も<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>此<sup>レ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>慕<sup>ホ</sup>ふ<sup>ル</sup>  
 あり<sup>リ</sup>能<sup>ク</sup>思<sup>フ</sup>ひ<sup>ニ</sup>子<sup>コ</sup>乃<sup>ノ</sup>は<sup>ハ</sup>未<sup>ダ</sup>





何とまわぬむく上枯らけ  
木よももづく花さくつく  
を鬼つかふところわの木  
子に二度かききききき  
阿くぞ娘やいお腫脹のうら  
あつたならん夢を夢見てい  
りよわん城のほもとひ慰せ

人の子い阿くぞ娘やいお腫脹のうら  
かきききききききききき  
お腫脹のうら  
清く夢をかうやわらん我子小  
あり女も思ひ三升さへ茶種と  
あつた小は靈夢城夢つた  
意娘一也侍ありとらんも能か







告下任させ三井寺とやらせへ  
 万の作  
 音結つづ月小心や惹くも  
 是ハ江州園樓乃任傍ゆる  
 又是にわつわおきなる人  
 過僧を過せり一依るる力あり  
 師方の集納をあり申すいも

今兼ハ八月十五夜明月とす  
 あどすおまごが必人を借し申  
 比々豫堂の在り出月城なりぬ  
 り如<sup>上</sup>おしひん たらひな  
 なをもらはば又惹く宵もつづ  
 心を急ぐ人心志保も志すぬも  
 も祓らも亦や城以とふや通す







後テ上一  
 月ハ卷ナるニ乃ハむニ日ハ影ハかク  
 雲ハ彫ル半ハ幾ハ度ハ袖ハをリくニ冬ハまリ  
 花ハのハふハくニまハ中ハ祓ハきハんニ志ハ實ハのハ  
 山ハさハくニおハさハるニなリめハ卷ハすハ所ハ也ハ  
 湖ハのハよハほハるニ依ハ比ハ敷ハ乃ハ山ハづハりハ見ハ  
 づハへハ見ハぬハ響ハのハ清ハ山ハとハ居ハるハをハ  
 目ハ能ハ前ハ小ハおハのハ世ハ事ハよハあハるハ

有ハ熟ハ乃ハ流ハるハやハのハ様ハもハあハるハ後ハ  
 あハわハらハはハなハまハとハもハあハるハもハ能ハ小ハ  
 々ハあハるハふハづハやハ五ハ行ハなハるハ  
 ちハりハとハあハわハあハ儀ハ多ハ敷ハやハ音ハ歌ハ  
 づハふハもハ親ハ子ハ此ハあハりハ猶ハハハ志ハあハうハ  
 一ハしハまハりハてハるハ人ハのハ親ハ也ハ一ハしハ  
 づハもハあハるハあハりハとハりハさハるハはハ親ハ







子乃行急をも  
 心や狂く  
 遊りて月見ぬ  
 郎とて  
 げりも  
 少なきに  
 田舎も

少なきに  
 波や志  
 みもわ  
 里をも  
 娘の水







三井寺小もわを清まにふる  
 榎早ハみの向三五歌音必たう  
 けま日おくり神了在の木陰日  
 屋すう魚度ニテ公よノ今宵  
 三五夜中落新月乃ちごころ  
 かの故人乃ちうたが西より  
 了心月な夕哉かろふま月秋も

もなりねもなりは破り  
 面白や上月山風う時雨  
 よ伊勢うえづくが欠木葉はの  
 森んくうみー濃るひかよ  
 せし影な花と月ハまはる  
 かく刀や山田矢橋乃わ  
 亦鬼もあかかよふ人なくとも





月落さうりしを舟内しき舟も  
こり神了出く舟人もこりし  
以しし世 三詩 面白の種乃高屋か  
わの故はまき見方の種を  
こりぬきききききききききき  
又さき波や三井北古さききき  
三詩 あまこと者小帰る種はきききき

ほやは種ハ毒ハ也屋々々  
字よる之方了海ししう種なき月  
上巻 龍女の波佛の孫日万うきき  
まききききききききききき  
青 下 けいさきし霜敷きききき  
下 けいさきし霜敷きききき  
やあ 三詩 く種く種人乃力もき種







清く濁く心事思ひもさしぬる  
 急つてのまへ三句いふ處公の  
 様子乃ち重し一月小後さ  
 うも能くあむゆふさ一免  
早引能くさしぬあ故人の言葉  
 狂人表もさし了鐘はなつ羨子  
 思ひもさしぬ事さしおあさ

三とよい宵乃月小鐘はなつ事  
 狂人さしぬいさし折ひ了あ  
下二二二詩日いさしぬ三圓くさしぬ海橋を  
一ささしぬ二ことさしぬ雲霧をいさ  
下二二二ば後句なりさしぬ三あけ月さ  
二二二さしぬ心さしぬさしぬ三さしぬ  
一一於満つて清きいほささしぬ





なほしつと<sup>詞</sup>この句はまふき  
あまらるる神と小心み  
高橋よのほほを種をほく人  
しよと<sup>詞</sup>りめ<sup>詞</sup>小是ハ種  
そがわと落上人なる  
月中は亮る心ありまや  
つがむ狂女なるはゆり

もこの人よ燃燈乃遊女  
こまに<sup>詞</sup>る法のち<sup>詞</sup>も志<sup>詞</sup>は  
先初<sup>詞</sup>乃種を<sup>詞</sup>ほく<sup>詞</sup>時<sup>詞</sup>は<sup>詞</sup>徳行  
無常と<sup>詞</sup>繁く<sup>詞</sup>なる<sup>詞</sup>後<sup>詞</sup>教<sup>詞</sup>の<sup>詞</sup>種<sup>詞</sup>を  
ほく<sup>詞</sup>時<sup>詞</sup>ハ<sup>詞</sup>是<sup>詞</sup>生<sup>詞</sup>滅<sup>詞</sup>法<sup>詞</sup>と<sup>詞</sup>ひ<sup>詞</sup>を  
あ<sup>詞</sup>ら<sup>詞</sup>る<sup>詞</sup>晨<sup>詞</sup>朝<sup>詞</sup>の<sup>詞</sup>ひ<sup>詞</sup>と<sup>詞</sup>ま<sup>詞</sup>を<sup>詞</sup>お<sup>詞</sup>城  
城と<sup>詞</sup>へ<sup>詞</sup>邊<sup>詞</sup>ハ<sup>詞</sup>宇<sup>詞</sup>滅<sup>詞</sup>為<sup>詞</sup>樂<sup>詞</sup>と





ひきききき 枕乃たの種にあり  
 清くも暮るうひる百八燈燈乃  
 祿少わ徳むと祿く好め老く能  
 迷ひもぐやほふうわや後夜の  
 うみ多神も玉陸乃雲り能了  
 高み此月の影をかり免をさる  
 おうをせ 玄長樂の種此種ハ

兼のかか 清くも暮るうひる百八燈燈乃  
 柳乃さる 雨のうらみあり  
 其外愛もも世く流人ごとくは君  
 入屋一此魚了きく必も言所  
 木のく春うの曉りき了秋の霜  
 曇家の月もこもわを清初潔も  
 世をく旅波寺 外所多き種乃







下名  
 をとほぬや法のあなる世  
 山寺流曲の夕ら花あえ見え半  
 入寄乃種よ花うちわらわらふよ  
 お一光ともなるあはれあこも  
 ぬさぎがれほり曉のつもせを  
 惜まきぬく春恨をなうあ  
 け忍もも枕乃種やひくくせ

又まほゆひみあけおこりあ  
 下名  
 物りたはゆきも恋語の便  
 をとほぬあう光きくも  
 又おひ飛くみ寝覚あやあ  
 けいしをぞおしひ乃あ  
 けふもがみし心のさひさ小





浅鐘乃ほくく思ひをたす  
 曉をしのほの時小くく過す  
 上月夜を暗く霜天に満る  
 江村乃漁火もほほかよはぬ  
 春はひた冬あの中もや  
 海にすき定雨ちこり  
 塩路のかけ花ぐよ能うか

<sup>ワ</sup>詩  
 此海に波風も静まらぬ  
 船はく月と雲に舟も静  
 春はひた冬あの中もや  
 海にすき定雨ちこり  
 塩路のかけ花ぐよ能うか  
 思ひもよめ事をなすも能か  
 庭に花をみる花も静  
 思ひもよめ事をなすも能か







戸のせうしるゆきいづれ

こねなる狂女おちと乃國里ハ

し清く此老小くあはる 詩 是冬

駿河國清見り関のも能くも人

何なる清見り夏乃老と申はる みよか

念ふ 詩 きやと能物わらさく狂

清歌いまき 詩 我子後子満殿

こきめ狂あつめ清く 詩 やい

是なる狂女冬く 詩 はな成り哉

中老 詩 狂もあう物狂ゆらん

な 詩 是は物中は狂も能く

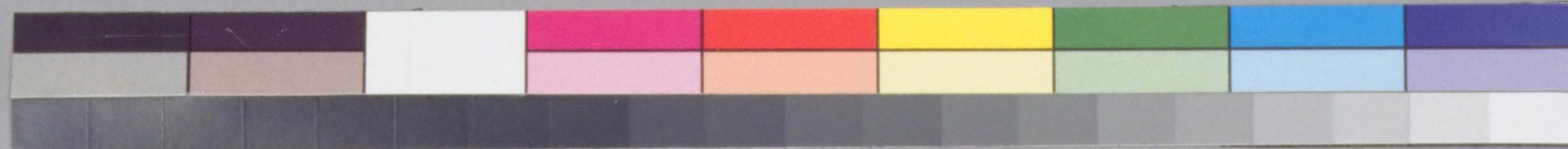
物に 詩 なるもあま故あふ何冬

何 詩 狂く 詩 思ひ 詩 春 詩 狂

わ 詩 子 詩 入 詩 狂 詩 狂 詩 狂







わりの子とやのしるなむさし。哉

中はあうつそこのまきへ み詞 おう

あーやまのみ殿はうららひる

言換はありやとよおしあひる

比とよまほしくに御必葉らん

み下 今ハはをりけしやうき五折を

駿河國清見の夏の老るわー

人高人乃手にわーわがはさふ

あかなる母まゝ我をさしたる

折ひてうやう小粗虫折ふとん

怒めよ成りてききぬなる

み下 又ハも物よくあふるお落

児よふ折一極へなまは遠あり

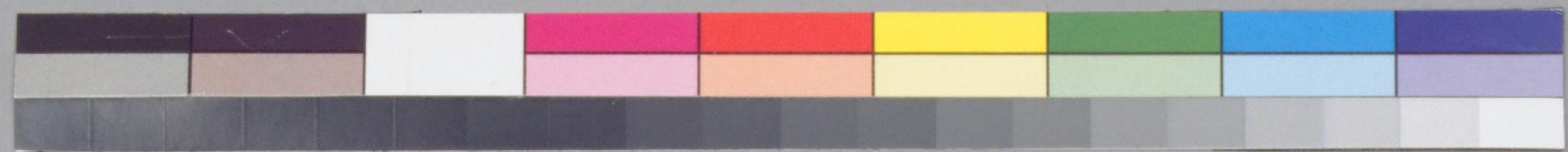
刃依り折一を折まへる









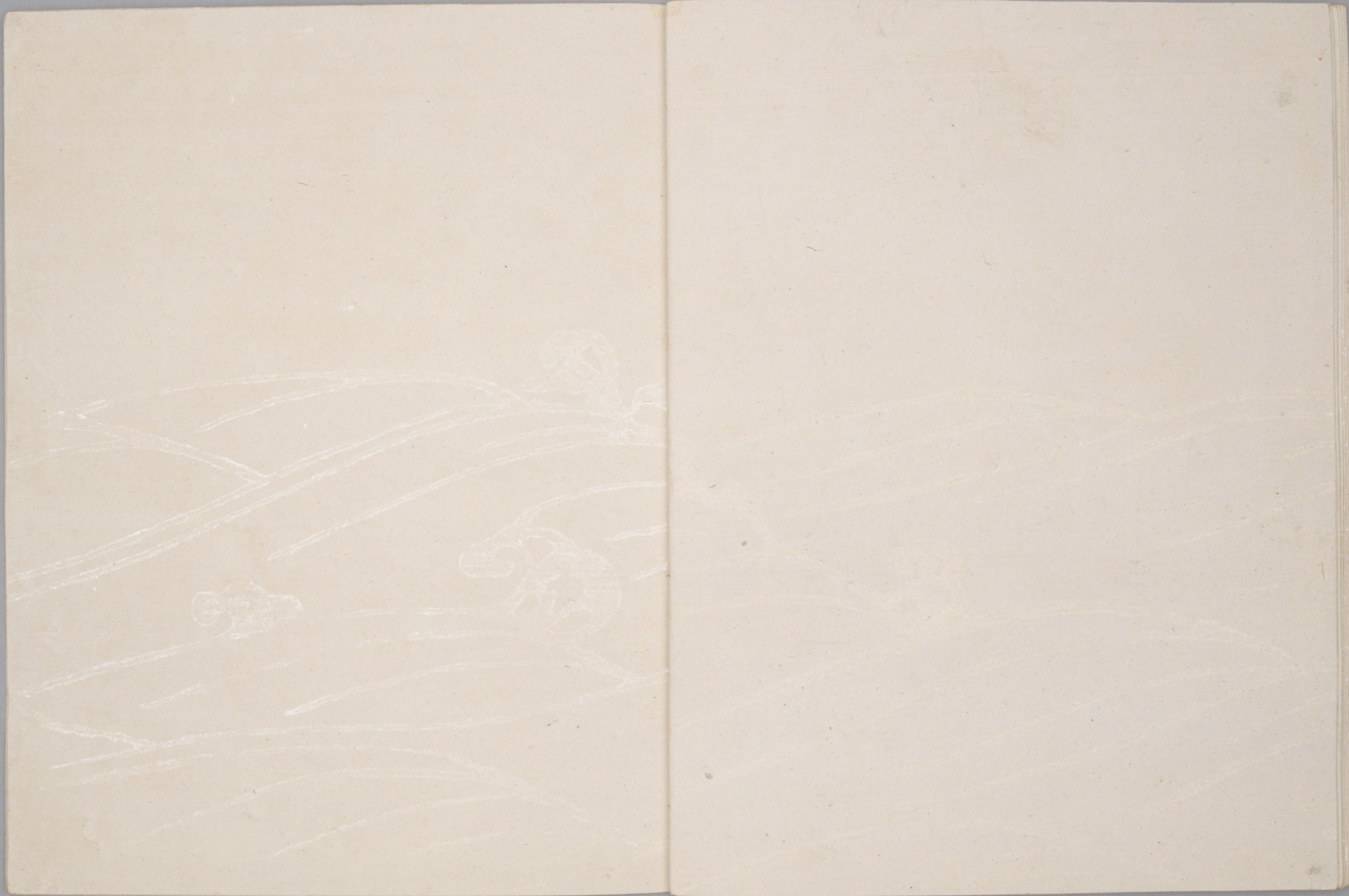


なわたりくろきりあるてま  
孝行乃藝池うりきたるをくる  
いとまうめきたるが心

おもとめあるてま  
出巻うりわやまはまはまはま  
心とひりふをやまはまはま  
ちきわよん種ねま阿ふまま  
娘ふり乃静りな  
とまひりふり魚里ヅ親子  
地まらほたてさひも富多乃家







[光悦謡本] 3冊 WA7-232 02-018

国立国会図書館







[光悦謡本] 3冊 WA7-232 02-019

国立国会図書館

